

藤本伊三郎賞を 受賞して

中川 弘子

愛知県がんセンター研究所
疫学・予防部

この度は、栄誉ある藤本伊三郎賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。私は博士過程修了後、2014年より愛知県がんセンター研究所にて地域がん登録に関する研究に取り組み始めました。このような早い時期に受賞となりましたのは、ひとえに地域がん登録事業に関わる皆様の御指導を賜りましたお陰と存じます。心より感謝申し上げます。

この度の受賞対象となった演題は、2016年10月にモロッコ王国マラケシュにて開催された国際がん登録学会の口頭発表である「Changing trends in colorectal cancer incidence by anatomic site in Japan from 1978 to 2004」です。宮城、山形、新潟、福井、愛知、滋賀、大阪、岡山、広島、長崎の地域がん登録よりご提供いただいた大腸がんの資料を利用し、1978～2004年までの大腸がん亜部位別罹患率の経年変化について、Joinpoint回帰解析による結果を報告しました。発表内容は、それまでの上昇トレンドであった大腸がん亜部位別罹患率が、1990年代になり、左側結腸（下行～S状結腸）や直腸がんはそれぞれ横ばい及び下降トレンドへ転じたのに対し、右側結腸（盲腸～脾湾曲部）がんのみが上昇の罹患率トレンドを保っていたというものです。会場からは非常に活発な質問と議論を頂戴しました。イタリアのStefano Rosso先生からは、この研究を更に掘り下げるためのアドバイスも頂戴でき、また、発表後も質問を下さる方もおられ、関心の高さを感じました。質問への答え方など課題もありましたが、何よりも日本のがん登録資料より得られた新たな知見を世界中のがん登録に関わる参加者の皆様にお伝えできたこと、それは何事にも変えがたい貴重な経験でした。今後とも積極的に国際学会での口頭発表の機会をいただき、日本のがん登録より得られた研究成果を少しでもお伝えできれば幸いです。

最後になりますが、これまで多大なご指導を賜りました諸先生方と、日本がん登録協議会関係者の方々に感謝申し上げます。今後ともがん登録資料を活用した研究に邁進し、その成果を社会に貢献できるように日々精進して参りたいと思います。

今後とも、どうか宜しくお願いいたします。

藤本伊三郎賞と 今後の活動

松坂 方士 専門委員

弘前大学大学院 医学研究科
地域がん疫学講座



平成28年度藤本伊三郎賞を受賞するにあたりまして、ニューズレターの紙面をお借りして皆さまにご挨拶申し上げます。

今回の受賞の対象になりましたのは、2016年10月にマラケシュ（モロッコ）で開催された第38回国際がん登録学会でポスター発表した「Trend of incidence and mortality rate of stomach cancer in Aomori prefecture, Japan」という研究です。青森県のがん（全部位）年齢調整死亡率は過去10年以上にわたって全国で最も高いことが明らかになっています。青森県において、胃がんは部位別にみると肺がんと大腸がんについて3番目に死亡数が多く、年齢調整死亡率は全国平均を大きく上回る状態が続いています。そのため、有効な対策を立案するための原因究明が極めて重要です。今回の研究では、青森県と全国の胃がん年齢調整罹患率・死亡率、胃がん年齢階級別罹患率・死亡率、胃がん年齢階級別診断時病期を比較しました。その結果、青森県の年齢調整罹患率は男性では全国とほぼ同じであり、女性では全国よりも低いことが分かりました。また、年齢階級別罹患率も男性では全ての階級で全国とほぼ同じであり、女性では全国よりも低いことも明らかになりました。さらに、診断時病期では男女とも青森県の限局がんの割合は全国よりも低く、このことが青森県の死亡率が高い原因の一つと考えられました。さらに、胃がん検診受診率は青森県よりも全国が低いことも分かり、がん検診受診率の向上のみではがんの早期発見が増えない可能性を指摘できました。

今回の研究結果は昨年より行政（青森県健康福祉部）と一緒に検討しており、今年度から青森県内のがん検診の精度管理向上に向けた事業を開始しています。これは死亡率低下のためにはがん検診の受診率だけでなく精度管理の向上も必要であるという視点からの事業であり、がん登録データを利用した感度・特異度の算出も実施する予定です。

日本のがん登録は登録精度の向上が著しく、データを利用したがん対策はこれからが正念場です。都道府県におかれましては、がん登録をがん対策におけるPDCAサイクルの基盤としてご活用いただくことを是非ご検討下さい。